



お盆

ご挨拶

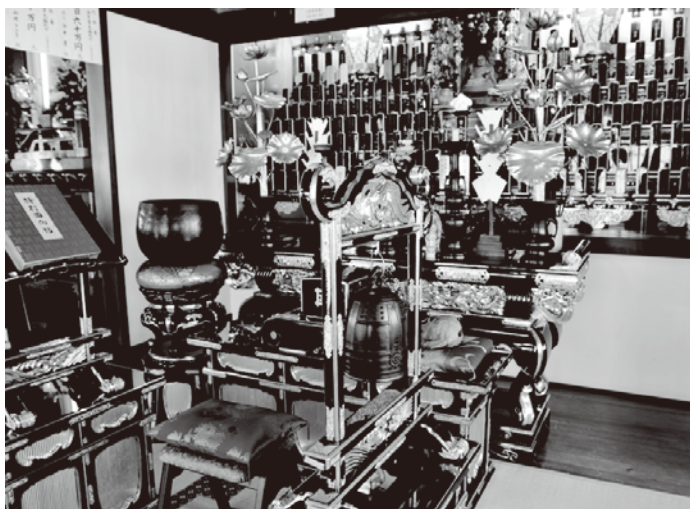
こんにちは。住職の尾藤宏明です。

本光寺も656年目の夏を迎えようとしています。昨夏も暑い日が続き、今年もまた暑い日々が続いておりますが、皆様にはお変わりないでしょうか。お身体にはくれぐれもご自愛頂ければと思います。

夏といえばお寺の行事は「お盆」です。正式名称は盂蘭盆会と言います。

この世に生を受けた全員が、祖先をもっています。一人きりで生まれた方はこの世には存在しません。私たちの貴重な生命は、祖先の方々から受け継がれてまいりました。

祖先の霊を敬うことは、今いる私たちの生きている証、若い方、中高年の方、老年の方を問わず、祖先を敬うことが日本の大切な習慣です。



私は本光寺の住職として毎朝、檀家の皆さんの祖先の位牌壇にお経をあげております。お盆という節目ですので、檀家の皆さんも、本光寺に足を運んで祖先の霊を祀ってください。お立ち寄り頂き（受付に声をかけて頂き）在宅の時は一緒に祖先の霊を祀らせて頂ければと思います。（お盆時期外出が多くなりますので、大変ご迷惑をおかけいたします。）

本光寺に初めて来られる方や、本光寺が菩提寺でない方も、本光寺には、全ての霊に通じる法界萬霊供養塔がありますので祖先の供養ができます。

光胤山本光寺 35世住職 尾藤宏明 合掌

住職のちょっといい話

以前、私の好きな食べ物屋さんで「蓮山飯店」さんをご紹介いたしました。今回は、「レストラン じんで」さんをご紹介いたします。ログハウス調のお店は、某ネットの食レポでも高評価。私のお勧めは、ボリューム満点の「ハンバーグ」です。住所は、松戸市紙敷 731 です。いつも美味しくいただいております。「レストラン じんで」さん、ありがとうございます。



私の修行の思い出

百日大荒行 ～正中山 遠壽院 荒行堂～

住職の修行（百日の荒行について・・・過去～現在に至るまで）

私は、日蓮宗の僧侶として、光胤山本光寺の住職を務めさせていただいております。百日の荒行を4回行ってまいりましたが、その荒行について簡単に説明させていただきます。そもそも荒行とは「正中山 遠壽院 荒行堂」で行われています。天正19年（1591年）より伝承されており、歴史と伝統を引継いでいるものです。11月1日から翌2月10日までの百日、厳しい修行が行われます。起床は午前2時半（当然ですが闇夜です）その後水行（極寒の中、水をかぶり身を清める）を3時、6時、9時、12時、15時、18時、23時に行います。食事は朝5時半と夕方5時半の2回のみ。これ以外は全ての時間を膨大な量の法華経を、1日何百巻も読経し、撰法華経を写経し、相伝書の書写も行います。

4回の修行の感想などを「はひふへ本光寺」で書かせていただきたいと思います。

日々修行の毎日ですが、あえてへ百日修行をしたことを振り返り、皆さんにも、僧侶の修行の一環を見いだせて頂ければと思います。

今回は、ホームページでも公開していますが、初めて行った、第初加行の大荒行～崖っぷち～の段をご紹介します。後々、他の修行もエピソードとともに紹介させていただきます。

第初加行の大荒行 ～崖っぷち～

平成7年11月1日～平成8年2月10日

私が23歳の時です。

この行では、自分自身の弱さ・怠け・ズル賢さを知り、「怠け」と「ズル賢さ」を悔い改め、そして直そうと決心しました。本当の自分はこうだったのかと初めて知りました。

この「怠け」と「ズル賢さ」を悔い改め、そして直そうと決心し、それが自分の修行だと感じた23歳の荒行でした。（ホームページより）。



荒行堂の中に入ったときは正直、嬉しかったです。なぜなら、自分の師匠でもある祖父が、かつて修行した場所であったことや、聖地である場所に自分で足を踏み入れたからです。修行が始まり、修行中に思ったことは、修行中に死んでしまっても構わないという覚悟でした。それほど厳しかったからです。そして、修行の終了。不思議と達成感はなかったのです。心身ともボロボロ状態。休みたいという気持ちで一杯でした。（ハンバーガーが食べたい・ラーメンが食べたい・ゆっくり寝たい・・・今、思い返すとまだまだ修行が甘かったです。）当時、檀家さん（今もですが）は年上の方が多く、私はNOとは言えない方々でしたが、その方々が、修行後、ある程度一人前の僧侶として見て頂けるようになりました。修行を成就した後、参加された僧侶のお寺に全員で回らせていただくのですが、そこでいただいた郷土料理が自分のご褒美かなと思いました。

このようなことがあり、第初加行は終了いたしました。